

絶滅種ホソスゲがパソコンから発見される

江別市 藤田 玲

カヤツリグサ科のホソスゲ *Carex disperma* Dewey という植物をご存知でしょうか。見たことがある方は少ないと思いますが、お察しの通り地味な植物です。でも成熟した果胞はツヤツヤと光沢があり、とても可愛く繊細なスゲで、私は勝手にスゲのプリンセスだと思っています。ホソスゲは長い間、環境省版レッドリストでは絶滅種とされていた植物で、国内では北海道のみに分布の記録があります。

ホソスゲの存在を初めて知ったのは2005年に出版された勝山輝男著「日本のスゲ」をみたときでした。この図鑑は国内に生育するスゲを網羅し、全形の個体写真だけでなく、葉鞘の写真や小穂のアップ写真が掲載されている素晴らしい図鑑です。図鑑を購入後、すぐに道内に分布するスゲをチェックしてみました。ホソスゲのページを開いたときです。そこには他のスゲと異なり、個体写真はなく、さく葉標本の小穂を拡大した写真が1枚だけ載っています。解説には、1954年に北海道猿払で採取されたが、その後は消息不明、とあります。

ホソスゲは本当に絶滅してしまったのでしょうか。いや目立たない植物なので見過ごされているのでしょうか。私は猿払のどこかでホソスゲが生えているような気がして、この幻のスゲを探してみたいと思いました。

猿払は遠い。私の住んでいる江別市か

らは約330キロ、1泊2日の行程でなんとか1日分の調査が確保できる程度です。しかも調査に適した果期である6～7月に行くとなると仕事が忙しく、なかなか厳しい話です。時間の経過とともにホソスゲを探したいという気持ちは下降し、10年の月日が経ってしまいました。

2015年に「日本のスゲ」の増補改訂版が出版されました。早速、ホソスゲのページを確認してみると、写真に変更はなく、ホソスゲはまだ消息不明のままでした。このときホソスゲ探しの火が再燃し、来年こそはホソスゲを探しに行くぞと心に誓いました。

翌年、2016年に仕事で利尻に行けることになりました。これはチャンス到来です。利尻には春と夏の2回行けそうなので、まず春は現地の下見をし、夏に本格的なホソスゲ調査をすることに決めました。ホソスゲを探すにあたり、生育環境を調べてみると、「日本のスゲ」には樹林内の湿地とあります。湿地に成立する樹林といえ、ハンノキ林、ヤチダモ・ハルニレ林、アカエゾマツ林を思い浮かべましたが果たしてどこを探せばいいのか見当がつかせません。時間は限られているので手当たり次第という訳にもいきません。北米のスゲ図鑑「Field Guide to the Sedges of the Pacific Northwest」では、湿生林の日陰に生えるとあります。暗さで考えたら湿原性のアカエゾマツ林の可能性が高いと単純に考え、